

摂取されている。口内炎による疼痛は持続。

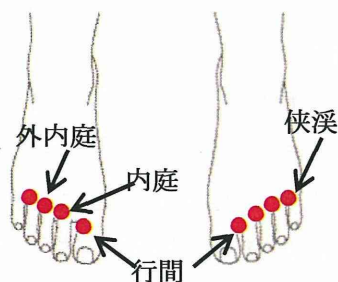
- 鍼灸

食事できず、水様便のため入院中であった。VAS;55mm程度の痛み。口内炎について質問すると「歯科の先生が、ガツと口を開けたから口の角が切れたんや。口内炎もなんでかできてそれが沁みて食べられへん。栄養士さんに話してもらって、福神漬けとお茶漬けでやっと食べれている」とのこと。痛み止めを使用しても、潰瘍に沁みる痛みは軽減できない状態であった。

脈診：虚・やや滑・細。

舌診：淡紅、無苔。

治療部位：〈毫鍼〉行間、内庭、外内庭、俠溪、〈円皮鍼〉行間、内庭、外内庭に行った。治療直後VAS;40mmとなったが、本人の印象ではあまり変化が認められなかった。



1 診+1 日目

- カルテ

14時「食後にうがいしとるで。ここ左の口角切れて痛いんや。薬も塗つとるで。ご飯食べれとる」食事8割摂取可能。

2 診目

(1 診+4 日後に退院。1 診+6 日目に外来にて)

- カルテ

10時「食べられるようになった」

外来にて化学療法（アバスタチン+5-FU +レボホリナート）が再開。

- 鍼灸

化学療法治療中に鍼治療を行った。

VAS;68mmの痛みがあり。

「欠伸しただけでも口の端が切れんのか。歯が合わんからやろか？歯茎も痛い。それに両方で噛むことができなくて、右側で偏っているから噛むんかな？噛むから口内炎ができる気がする」と噛みあわせ異常もあった。また、右膝（足三里付近）がたまに痛みが起こることがあるとのことだった。この時に口内炎のできやすい個所を聞くと

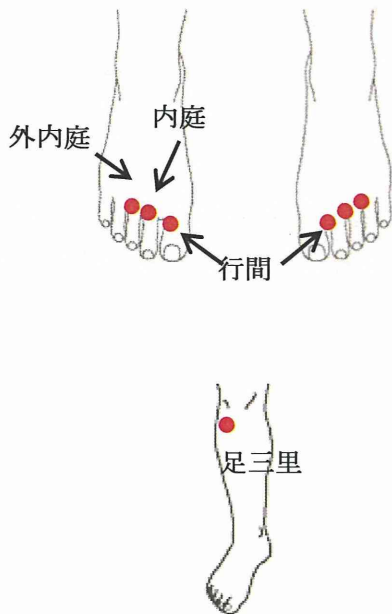
「右側に多い」という返答があった。切診：右足三里硬結圧痛、右内庭圧痛、右外内庭圧痛、右行間圧痛。

脈診：胃弦。

舌診：淡白、薄白苔。

治療部位：〈毫鍼〉内庭、外内庭、行間、右足三里、〈円皮鍼〉行間、内庭、外内庭に行った。

治療直後、痛みはVAS;4mmとなり、「言われなかったら気づかんかったし、全然いたないな」と患者本人が「おかしいな」と舌で潰瘍部位を触れても痛みがほとんどないとコメントが得られた。



2 診+14 日目

- カルテ
「食べられるようになった」

2 診+21 日目

- カルテ
「口は切られているが、食べられている」

2 診+28 日目

- カルテ
口内の痛みは楽だが、歯茎に痛みがあり。
12 時、「痛みは 8 割くらいにしてもらったから楽」

その後

- 2 診+30 日目、「痛くなってきて、食べられなくなった」
- 2 診+36 日目、低血糖脳症にて意識状態が悪いと連絡があり。

【転帰】

鍼灸治療介入全 2 回。

2 診+36 日目に低血糖脳症になり、他病院へ転院となった。

【まとめ】

今回の症例は鍼灸介入前、鍼灸治療をこれまで受けた経験がなく、またお金もかかって痛みが治まらなかつたら嫌だとスタッフに漏らしていたが、研究の趣旨を説明し同意を得られ、介入することになり、1 診目痛み VAS55 mm→40 mmと「あまり変わらない」という印象があったものの、後日「鍼灸を外来でもしてくれるらしい」とスタッフに鍼灸を受ける意思を話す姿がみられた。また、外来で化学療法中に治療を受ける際、「痛みであまりご飯が食べられず、お茶漬けのようなものしか食べれてない」と話されていたが、2 診目 68 mm→4 mmと大きく軽減。「この状態が続けばいいな」と、笑顔を見せられていた。また、カルテより、最終鍼灸治療から 3 週間後まで痛みなく食事が可能であったことから、継続効果もあったのではないかと考える。しかし、残念ながら、患者の都合に合わせることができず、化学療法終了後に鍼灸治療を予定していたが、患者状態および都合により帰られる事が多く、結果治療は 2 回のみとなり、痛みが再発、経口摂取ができなくなり、低血糖脳症となってしまったことから、素早く対応するためにも常時鍼灸師が病院内にいる環境が望ましいと考えさせられたケースであった。

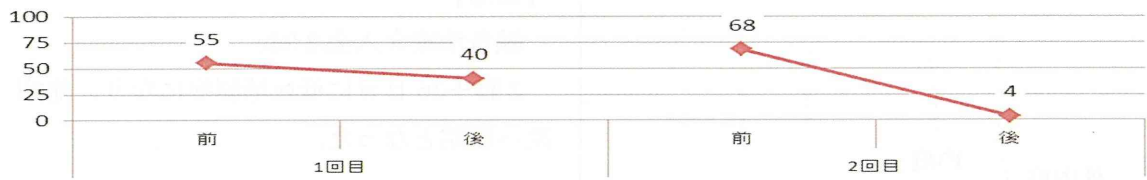


図2. 口内炎の痛みのVAS評価

1回目、治療前VAS：55 mm→治療後40 mmと軽減しているが、患者自身はあまり変わった感じはなかった。しかし、2回目VAS：68 mm→4 mmと軽減、物理的的刺激を与えても、VAS：4 mmと痛みの改善がされた。

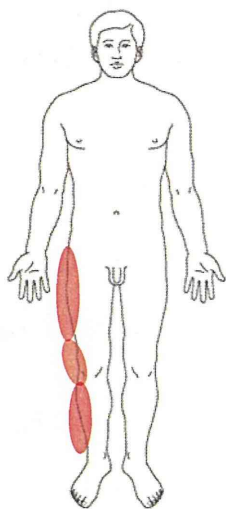
【症例】39歳、男性

【傷病名】「腎癌」

(肋骨・L4・仙骨・右腸骨転移あり)

【治療目的】「右下腿外側部痛」

服薬により安静時の痛みはほとんどない。しかし、体動時および後に強い痛みがあり、レスキュー使用してもコントロール不十分のため、依頼された。



【所見】

X-1年11月、腰痛、左外側部痛を訴え受診。結果、腎腫瘍10×8cmを認められ、また第4腰椎、仙骨、右腸骨転移性腫瘍が確認された。

X年1月に右腎臓摘出を行う。主訴に変化はなく、オピオイド系鎮痛薬による副作用便秘傾向にある。安静時痛ほぼ感じない。動作時(おもにトイレ)に強い痛みを訴える。

痛みの性質：重だるい痛み

切診：右足三里緊張硬結圧痛、上巨虚(右硬結、左軟弱)、右胆経やや緊張。声は弱々しい。

脈診：脾滑・腎弦。

舌診：淡紅、薄白苔、舌下静脈怒張。

望診：顔色黒い。

【東洋医学的弁証】

腎気虚、右少陽胆経脈・経筋病、気虚、気滞、血瘀

【方法】

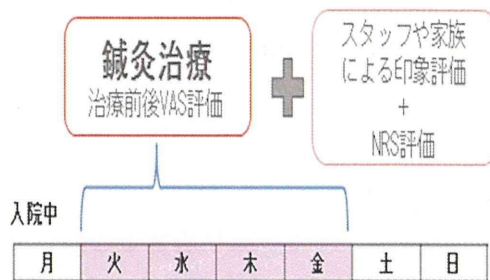


図1. 治療の流れ

入院期間1月～2月までの36日間のうち週4回、計12回治療を行った。治療時間は約10分。体動時に強い痛みが起るため、出来る限り動かたくないという本人の希望から仰向けの状態にて治療を行った。

【使用鍼具】

毫鍼：セイリン社製、直径0.12mm×長さ15mmを2mm程度の刺鍼で行った。

円皮鍼：セイリン社製、直径0.2×長さ0.6mmを使用した

【評価】

痛みスケールにはVASを使用。治療前後にて評価。それ以外の時間ではNRS(統一できず)にて医療スタッフが評価、加え医師、医療スタッフのコメントをカルテより抜粋し、印象評価とした。

【経過】

1診-2日目

- カルテ
5時、「痛くて目が覚めました」NRS7相当
8時、重たいじーんとした痛み NRS5
レスキュー使用量7回
(5:15、7:00、9:32、11:30、14:40、17:50、23:50)

1診-1日目

- カルテ
6時半、「やっぱり起きると痛いですね。夜はまあまあ眠れました」
11時、排便-4日。
フェンタニル1.2mlからオキシコドン塩酸塩水和物20mgに変更。
レスキュー使用量フェンタニル2回
(6:30、11:30)、オキシコドン塩酸塩水和物2回(17:00、20:00)

1診目

- カルテ
10時半、「今日は5~6くらいです。横を向くと少し楽です」
21時、「トイレに行ったので5くらいです。オキノーム飲んで4になりました。2~3くらいの時もあるし、鍼灸効いたのかな？」
レスキュー使用量6回(2:00、7:15、10:55、13:00、14:45、21:00)
- 鍼灸
顔色は黒い、声は弱々しい、鍼を始めるとウトウトしていた
切診：右足三里緊張硬結圧痛、上巨虚(右硬結、左軟弱)圧痛、右胆経やや

緊張。

脈診；脾滑・腎弦。

舌診；淡紅、薄白苔、舌下静脈怒張。

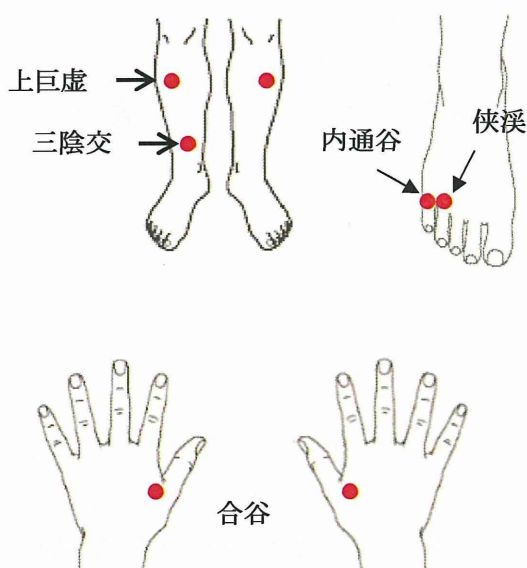
便通；昨日浣腸した・ガスは出る。

痛み；重だるい痛み。現在VAS；28mm

→治療後24mm変化なし(強い時

VAS；52mm近くある)、NRS；4~5程度

治療部位：〈毫鍼〉上巨虚、右三陰交、右侠溪、〈円皮鍼〉右内通谷、右三陰交、合谷



2診目前日からリニアック開始

(照射部位：右腸骨付近)

1診+1日目

- カルテ
1時半、「5~6くらい。トイレに行こうかと思って飲みました」
8時半、「昨日から、痛みよりムカつきがあつて・・・」
レスキュー使用量6回(1:00、7:00、9:00、12:10、16:00、18:30)

1診+2日目

● カルテ

10時、「便でてないけど、明日浣腸してもらおうかな？オキノームは30～40分くらい効果あるかな？」

22時、「今日はレスキューの回数多いけど、痛みが強いわけではなくて、予防的に飲んでいきます」

レスキュー使用量8回

(1:30、6:15、8:45、11:40、12:45、15:00、18:45、22:00)

1診+3診目

● カルテ

1時、右足の付け根に重い痛み (NRS : 6)

10時、車いす移動困難

11時、浣腸にて多量便

定時薬にエトドラク4錠、プレガバリン25mg2錠に増量。

レスキュー使用量9回

(0:20、3:00、7:10、10:00、11:00、12:30、14:00、16:00、19:00)

2診目

● カルテ

0時半、NRS : 6

5時半、NRS : 7

レスキュー使用量7回

(0:00、5:00、8:00、11:27、11:57、14:30、20:30)

● 鍼灸

リニアック後 (16:30～) 右腸骨付近に照射。

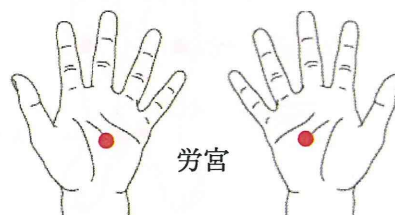
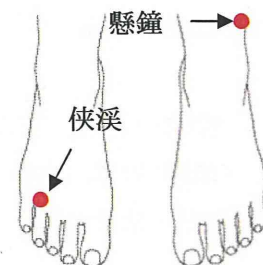
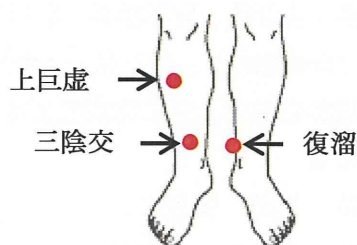
切診：右俠溪圧痛、懸鐘圧痛、労宮圧痛、右下腿熱感あり。

脈診：胃、滑、腎無力。

舌診：舌尖紅、白膩苔。

睡眠：服薬にてAM⑤:00まで、痛みで目が覚めレスキュー使用して再度寝た。本日浣腸し、ガスでた。朝方が特に痛い。

治療部位：〈毫鍼〉右俠溪、右三陰交、右懸鐘、左労宮、左復溜、右上巨虚、〈円皮鍼〉右俠溪



3診目

● カルテ

1時、足と腰に痛みを訴える (NRS : 6～7)

11時半、「右の太ももが痛くて、常に

3~4くらい。強から新しい痛み止めになったのでどうなるかな？」排便-2日間のため、カマグ6錠に増量。

20時、21時、NRS：6~7

レスキュー使用量8回(0:30、5:00、11:45、12:15、13:20、15:00、17:00、21:00)

● 鍼灸

右のふくろはぎの横(下腿外側)が特に痛む。

切診：右肝経、胃経熱感。左労宮(第2・3索状硬結)、足三里~上巨虚表面軟弱深部緊張、左公孫軟弱圧痛、右行間圧痛

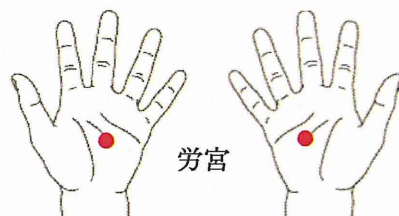
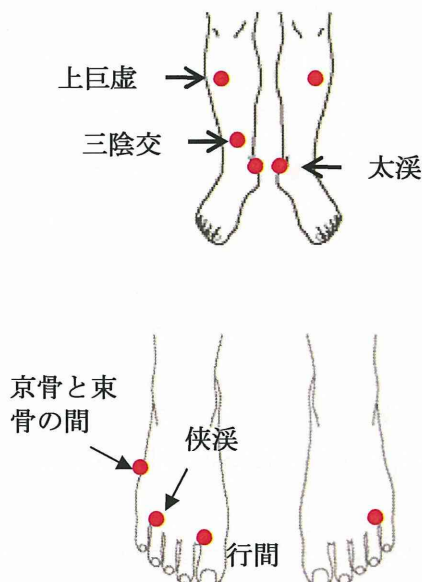
脈診：胃滑、腎無力。

舌診：舌尖紅、白膩苔。

便通：便は出ていないがガスは出ている。

右足VAS43mm→40mm

治療部位：〈毫鍼〉上巨虚、右三陰交、右行間、俠溪、〈鍍鍼〉労宮、太溪、〈円皮鍼〉右俠溪、右束骨・京骨の間



4診目

● カルテ

8時半、「痛みは2日前より改善しているが安静時の痛みはあります」

20時、オキシコドン塩酸塩(錠剤)60mgに増量

レスキュー使用量9回(1:00、6:00、10:00、11:20、14:20、15:00、16:00、18:00、19:45)

● 鍼灸

「相変わらず、痛いです」

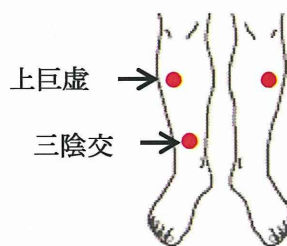
切診：陽明経圧痛、右三陰交圧痛。

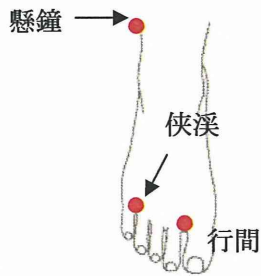
脈診：脾滑、腎弦。

舌診：紅舌、舌尖紅、舌下静脈怒張

VAS：53mm→48mm

治療部位：右行間、右俠溪、上巨虚、右懸鐘、右三陰交





5診目

- カルテ

8時半、痛みは午前中マシになってきた。嘔気もプリンペランでほぼ消失している。

10時半、苦痛表情軽減

レスキュー使用量8回

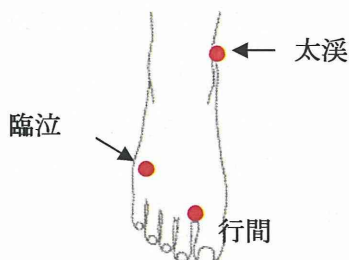
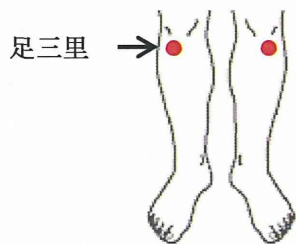
- 鍼灸

脈診：数（一息六至）、無力、肝滑。

舌診：淡紅舌、舌尖紅、舌下静脈怒張。

便通：1回/4日、睡眠：一度0時に目が覚めるが、2～5時まで眠る

治療部位：〈毫鍼〉右臨泣、右行間、右太溪、足三里、〈円皮鍼〉右足三里、右太溪、右臨泣



5診+1日目

- カルテ

6時、「今日はどっちも痛い。しびれは指先からふくろはぎにかけて。右より左です」

11時半、「お腹は動くけど、行きたい感じはしない。鍼はあんまり効いていない」

「あれ？いつも痛いんですけど」

(レスキュー使用量5回)

5診+2日目

- カルテ

9時、便意あり。ポータブルにて手一杯の排便あり。

5診+3日目

- カルテ

放射線療法6回目終了。

15時半、「便出ました。たっぷりかな。スッキリしました」

オキシコドン塩酸塩水和物20mg→30mgに増量。

レスキュー使用量7回（オキシコドン塩酸塩水和物20mg4回、30mg3回）

6診目

- カルテ

10時、「最近左が痛いです。左は4～5くらい。右は3くらいです」

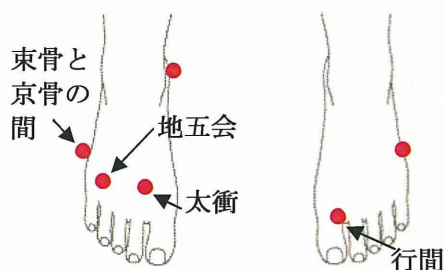
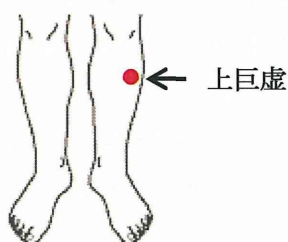
レスキュー使用量3回

- 鍼灸

14:30にリハビリ前オキシコドン塩酸塩（錠剤）使用。VAS=15mm

脈診：肝微弦、腎・脾微弦、69回/分
心脾の陰虚

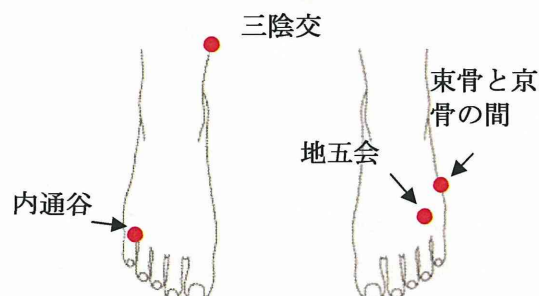
治療部位：〈毫鍼〉右太溪、左上巨虚、束骨・京骨の間、地五会、右太衝（寫）、左行間、〈円皮鍼〉左内庭、左外内庭



7診目

- カルテ
10時半、「左下肢のしびれが一番気になる」
17時、排便あり。普通便～軟便、多量。
20時、「痛みはないんです。全く。0？
今までなら3くらいだったのに。動いたら痛いです」
レスキュー使用量5回（9:00、12:00、14:00、16:00、17:00）
- 鍼灸
リニアックの時間が近づいているため、円皮鍼のみおこなう。
便通：自己排便できている。

治療部位：〈円皮鍼〉右三陰交、左束骨・京骨の間、左地五会、右内通谷

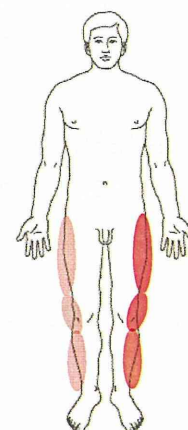


8診目

- カルテ
14時、「しびれています。変な感じ」
排尿動作後の疼痛の増強なし。安静で疼痛軽減か消失しているとのこと。
レスキュー使用量5回

追加愁訴「左下肢外側痛」

7診目以降から、右下肢外側痛よりも、左下肢外側に痛みを訴えるようになった。

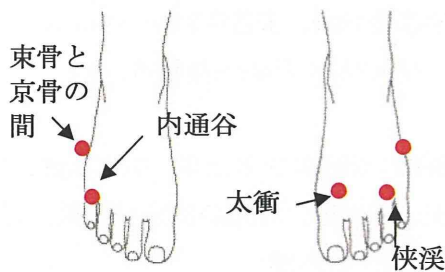
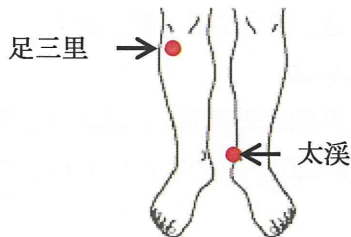


- 鍼灸
「昨日、トイレをした時、いつもは痛いはずが、右の痛みがあまりなかったです。そのかわり、左の痛みが強くなって…なんでだろう。左足の先はちょっと痺れた感じもします」
排便：自己排便できている。
右下肢外側後面痛VAS：20mm→治療後VAS：20mm

左下肢外側後面痛VAS：37mm→治療後
VAS:33mm

左痺れVAS：68mm→治療後VAS:57mm

治療部位：〈毫鍼〉右足三里、左太衝、束骨・
京骨の間、右太溪、〈円皮鍼〉右内通谷、左
束骨・京骨の間、左侠溪、左太衝



9診目

- カルテ

8時半、安静時痛マシに。動作時痛は
変わらず。

12時、体動時に痛みあり。NRS：5～6。

21時、ラキソベロン、プルセニド本日
から中止。

レスキュー使用量5回

(9:00、12:00、14:30、16:00、19:00)

- 鍼灸

「さっき飲んだので、痛みは落ち着い
ています。右よりも左が強いです」

脈診：滑、一息四～五至。

舌診：紅舌、舌尖紅。

右下肢外側後面痛VAS：15mm→治療後
VAS:12mm

左下肢外側後面痛VAS：45mm→治療後
VAS:42mm(安静時13mm)

左しびれVAS：67mm→治療後VAS:57mm

治療部位：〈毫鍼〉足三里、左三陰交、
左蠡溝、内通谷、左太溪、〈円皮鍼〉
内通谷、

9診+1日目

- カルテ

8時、「起きているときは5くらい、寝
ているときは3くらい」

レスキュー使用量4回

(11:30、16:00、14:20、23:00)

9診+2日目

- カルテ

8時、「お腹グルグルいうけど行きた
い感じはないです」

9時、寝返りでNRS：7の痛みあり。

レスキュー使用量5回

(9:20、11:32、13:20、16:13、19:56)

9診+3日目

- カルテ

8時、「便は出そうですけど、浣腸お
願いしようかな？」

レスキュー使用量4回(10:20、13:00、
16:20、19:00)

10診目

- カルテ

2時半、4時、「吐くまではいかないで
すけど、むかむかします」

8時、「まだ、吐き気あります」

10時、以前より嘔気はあったが、昨日

より悪化。

レスキュー使用量0回

● 鍼灸

「今はあまり痛くないです。やっぱり、左が痛いです。なんでだろ。右はそんなに痛みはないです」

切診：胃経緊張（R<L）圧痛、左太溪軟弱、左懸鐘圧痛

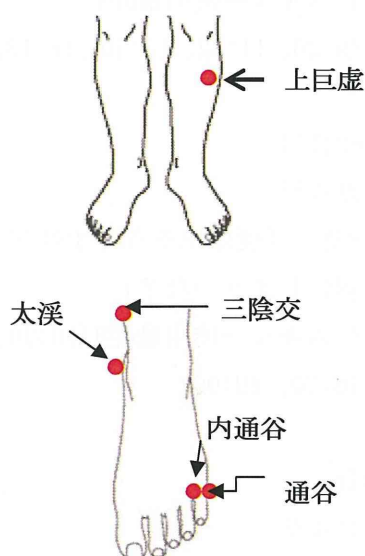
便通：少し。以前のように4日に1度ではなくもっと間隔が短くなってきた。

右下肢外側後面痛VAS：15mm→治療後15mm

左下肢外側後面痛VAS：25mm→治療後18mm

痺れVAS：58mm→治療後56mm

治療部位：〈毫鍼〉左上巨虚、左三陰交、左内通谷、〈鍔鍼〉左太溪、〈円皮鍼〉左内通谷、左通谷



11診目

● カルテ

8時、「嘔気はずいぶん楽になりました。」

寝返りしたらちょっと痛いけど、痛みもそんなにありません」

20時、「簡易トイレに便が出ました」卵大～普通便。

レスキュー使用量3回

● 鍼灸

「さっき、トイレに行くのに、動いたので痛みが出た」

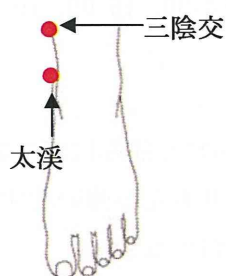
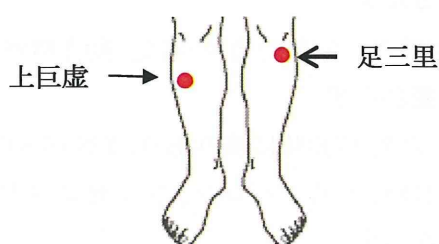
脈診：虚、洪、舌診：紅、舌尖紅、舌下静脈怒張。

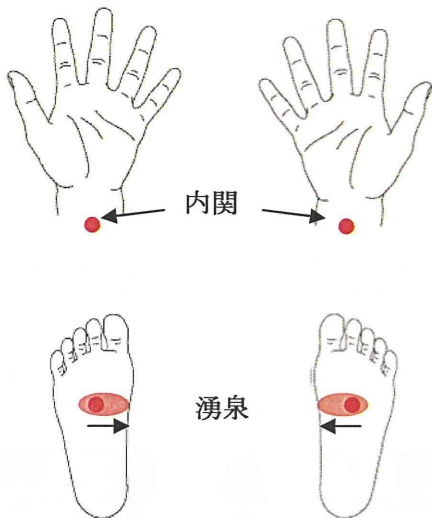
右下肢外側後面痛VAS：10mm→治療後8mm（右は動かしてもこれくらいの痛み）

左下肢外側後面痛VAS：動作時66mm→治療後48mm、安静時20mm→8mm

しびれVAS：75mm→治療後57mm

治療部位：〈毫鍼〉左足三里、右上巨虚、左三陰交、左太衝、〈鍔鍼〉湧泉～公孫、〈円皮鍼〉内関、右外関





【転帰】

鍼灸治療介入全 11 回。

11 診+1 日後に退院。自宅での生活となる。

【まとめ】

医療スタッフによる、最終印象として

①痛みに対して

劇的に聞いたという感じではない。
効果が今ひとつわかりにくかった。
なんとなく効いているのかな？

②腸蠕動促進に対して

腸が動いているのも鍼なのか薬なのか
わからない。

③総合

中止する事がなかったのは、嫌なことは嫌と言える性格であることから効果を期待されていたのではないのでしょうか。

といった、評価を得られた。

本研究では鍼単独といったわけではなく、通常治療に鍼灸を併用することによっての効果をみるためのものであったため、併用することによって右下肢外側痛は改善傾向であった。また、興味深かったのは、7 診時の放射線療法直後の痛みが普段 NRS：3 程度あったものが、一時的とはいえ 0 となっている。

それまでと異なる点と言えば治療介入するタイミングが放射線療法より早かったただけであり、介入タイミングで何か変わる可能性があるのかもしれない。

また、鍼治療介入前後では目に見えた変化は認められなかったが、11 診目右下肢外側後面痛 VAS：10mm→治療後 8mm（右は動かしてもこれくらいの痛み）と、放射線療法、服薬により右下肢の痛みコントロールは良好といえる。右だけではなく、左下肢外側後面痛 VAS：動作時 66mm→治療後 48mm、安静時 20mm→8mm、しびれ VAS：75mm→治療後 57mm と治療前後で初期と比較して大きな軽減が認められるようになった。

癌状態の進行が速いため、病態が重症になるほど、治療回数が求められるとも考える。

本症例から、癌細胞は神経に浸潤しており、また通常の腎癌の組織型以外に肉腫の成分もあり、分子標的治療が効きにくく、進行が速いものであった。進行が数年かけて変わるのでなく、半年もかからず歩行困難となった。そのため、少しでも良くなるものなら取り入れたいという気持ちもあり、その反面、期待がつよく、数回で効果があるはず。といった気持であったの

ではないかと感じた。そのため、十分に患者に説明し、接していく必要があると考える。

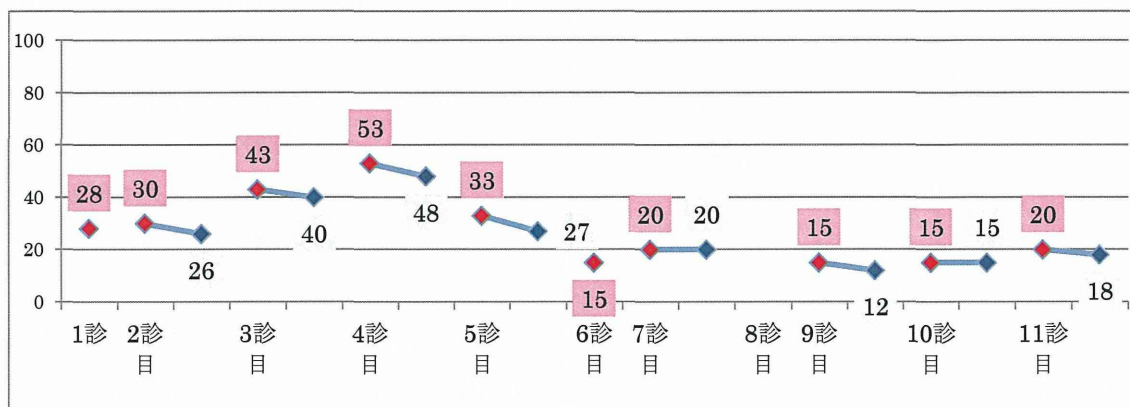


図 2. 右大腿外側部痛 VAS 評価による経過

トイレ時にレスキューを使用していたが、便座に座る際に痛みが起り、暫く痛みが続いていた。しかし、治療介入し始めてから、動作後の痛みの継続時間が短くなり、じっとしている事で痛みがすぐに緩和される状態となった。

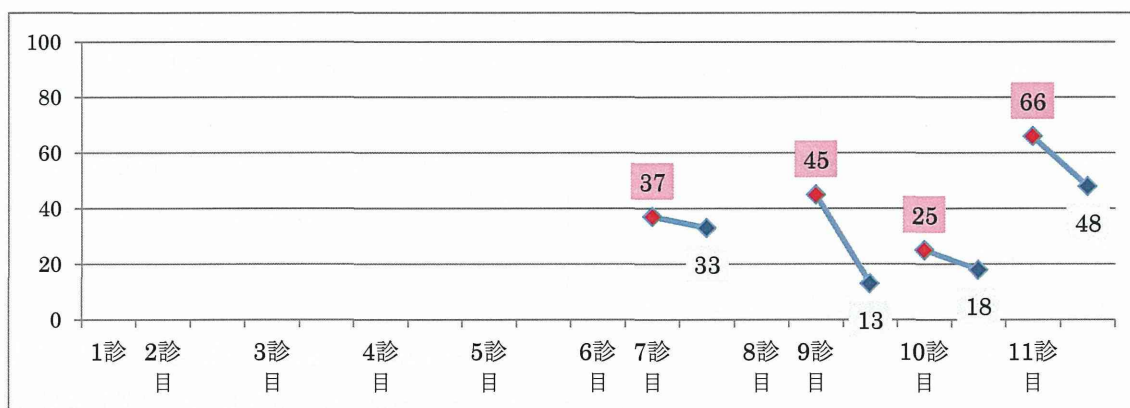


図 3. 左大腿外側部痛 VAS 評価による経過

6 診目までは、左側より右側の痛みが強かったため、訴えられなかったが、7 診目より徐々に痛みが増してきた。9 診目の安静時 45mm→安静時 13mm、動作時 43mm である。安静時痛が軽減した理由にはレスキューを使用した直後に鍼灸治療を行い、相乗効果があったのではないかと考える。

ACP49

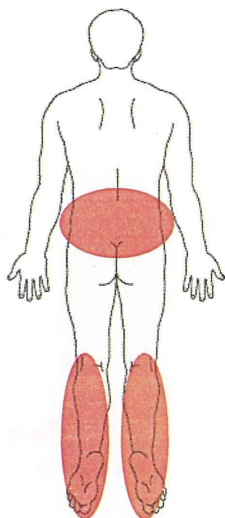
【症例】86歳、男性

【傷病名】「膀胱癌」(左尿管癌、L3転移)

【治療目的】「下腿浮腫」「腰部痛」

経口摂取できず、低栄養状態に加え、痛みのため動かないなど、多くの要因がある。

腰部痛は骨転移含まれているとおもいますが、コミュニケーションが難しいためVAS評価、FS評価等はず。動作時に痛みがあるため、動かないといった悪循環を繰り返している。



【現病歴】

膀胱癌のため、経過観察中であった。X-2年6月、体腔鏡下左腎尿管全摘除術にて行った。しかし、L3転移、L3前方のリンパ節転移が確認された。

SMA(上腸間膜動脈)、Aorta(大動脈)の間での十二指腸狭窄通過障害IVC腫瘍栓S/OAortaの浸潤を認める。

#不眠

X-1年1月、経口摂取困難のため、胃瘻造設、胃管抜去。フェンタニル0.25mg/日→5mg、痛みによる入眠障害は改善傾向

【投薬】

<レスキュー>

フェンタニル2ml/hの早送り

【所見】

点滴1600ml

X-1年1月半ば～絶食中

脈診：数(一息七至)、浮、滑(右)、微弦(左)。

舌診：淡白舌、胖大舌、嫩舌

下腿周径：右32.7cm、左33cm

【東洋医学的弁証】

脾胃虚弱

【方法】

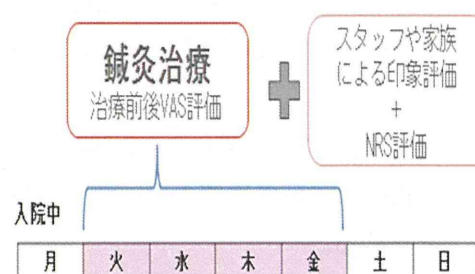


図1. 治療の流れ

入院期間1月～2月までの36日間のうち週4回、計12回治療を行った。治療時間は約10分。体動時に強い痛みが起るため、出来る限り動かたくないという本人の希望から仰向けの状態にて治療を行った。

【使用鍼具】

毫鍼：セイリン社製、直径0.12mm×長さ15mmを2mm程度の刺鍼で行った。

円皮鍼：セイリン社製、直径0.2×長さ0.6mmを使用した

【評価】

痛みスケールは初診時から腕を動かしてのVAS評価はできず、NRS、FSに関しても、傾眠傾向の時があり、反応が鈍く答えることができないため、浮腫は下腿周径（膝蓋骨下縁から下10センチの周径を測る）。また、痛みの評価として医師、医療スタッフのコメントをカルテより抜粋し、痛み評価と印象評価とした。

【経過】

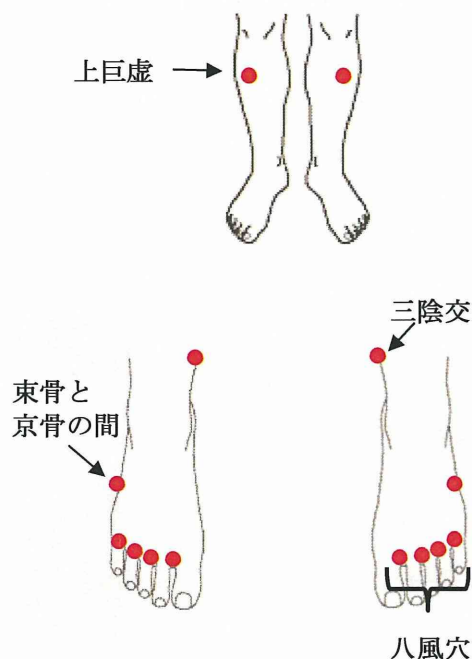
1診—1日目

- カルテ
7時、「痛いのは動かなんだったらないんや」（NRS：3～4）。疼痛は増強なく経過している。下肢のだるさが辛そう。
16時半、フェンタニル2ml/hにて苦痛表情なし。足の冷感あり、両下肢浮腫を認める。
レスキュー使用回数2回
(3：44、19：50)

1診目

- カルテ
21時、腰部痛出現
22時半「痛みは3～3.5くらい(最大5)」
本日の疼痛訴えなし。
レスキュー使用回数0回
- 鍼灸
「痛い…こ、腰…」
脈診：数（一息七至）、浮、滑（右）、微弦（左）。
舌診：淡白舌、胖大舌、嫩舌。
下腿周径：右32.7cm、左33cm

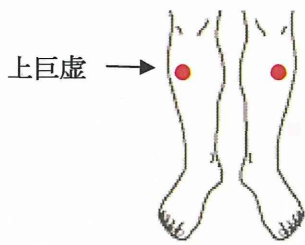
治療部位：〈毫鍼〉八風穴、束骨と京骨の間、三陰交、上巨虚、〈円皮鍼〉左束骨と京骨の間を使用した。



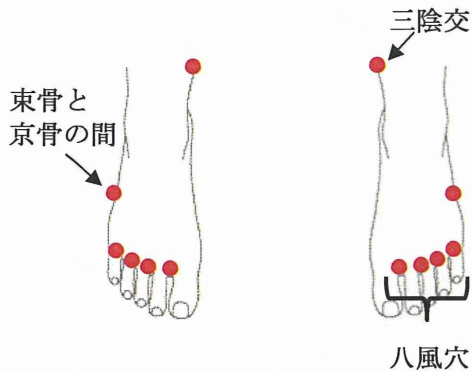
2診目

- カルテ
18時半、吃逆あり。
21時、「冷たい水をおくれ」一時的に吃逆、おさまっている。
レスキュー使用回数3回
- 鍼灸
声掛けで起きるが開始直後すぐに入眠される。
脈診：数（一息六半至）、弦、右浮、左沈。
舌診：淡白舌、胖嫩

治療部位：〈毫鍼〉八風穴、束骨と京骨の間、三陰交、上巨虚、〈円皮鍼〉左束骨と京骨の間を使用した。



上巨虚 →



東骨と
京骨の間

三陰交

八風穴

3診目

- カルテ

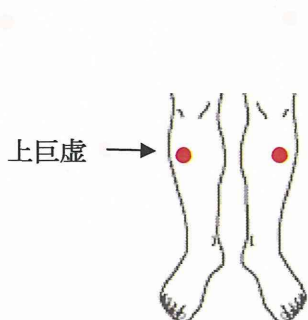
3時、1時ごろから5秒に1回のペースで吃逆あり。胃瘻開放していたが…。アイスノンで腹部を冷やすと吃逆消失。19時、「痛みはマシヤ」

- 鍼灸

吃逆中だが、閉眼し眠られている様子。左陽明経に熱感あり。

脈診：数（一息六至）、弦、胃の滑

治療部位：〈毫鍼〉八風穴、上巨虚、〈鍚鍼〉左尺沢、不容、天突、〈円皮鍼〉不容を使用した。



上巨虚 →



八風穴



天突

不容



尺沢

4診目

- カルテ

吃逆おさまっている。

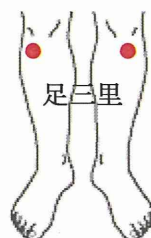
レスキュー使用回数2回

- 鍼灸

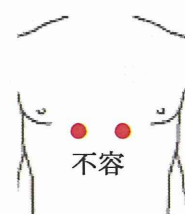
切診：左右胃経表面緊張

脈診：数（一息六至）、左関上弦

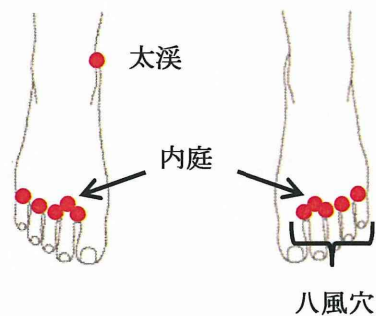
治療部位：〈毫鍼〉八風穴、足三里、不容、太溪、〈円皮鍼〉不容、内庭、右太溪を使用した。



足三里



不容



4診+1日目

- カルテ
今朝は吃逆おさまっている？

4診+2日目

- カルテ
2時、不眠の訴えあり。

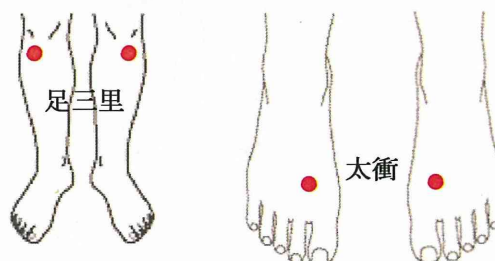
4診+3日目

- カルテ
7時、口渇あり、痛いのは痛い(3.5/5)
アセトアミノフェン200mgに増量。
11時、「今日は調子悪い」(4くらい)
13時、「えらい～えらい～5や、5!!」
昼過ぎから強い痛みを訴える

5診目

- カルテ
7時、疼痛の増強はない。夜間の疼痛増強あり。明るくなるにつれて落ちつかれている。
19時半、背中NRS：4。
20時、強い口渇あり。
- 鍼灸
排液570ml程度
脈診：浮、数(102回/分)、滑、弦。
下腿周径：右33.5cm、左32.0cm

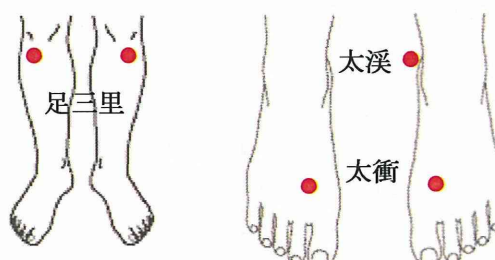
治療部位：足三里、太衝



6診目

- カルテ
9時半、アセトアミノフェン200mg→400mgに増量。
11時半、訪室時吃逆なく、入眠中
16時、胃痙から排液あり。排便なし。
18時半、吃逆減るもまた継続している。
言動が不明瞭になりつつある。
レスキュー使用回数3回
- 鍼灸
吃逆止まっている。声掛けしたときに1度のみ。
脈診：滑。

治療部位：足三里、太衝、左太溪を使用した。



7診目

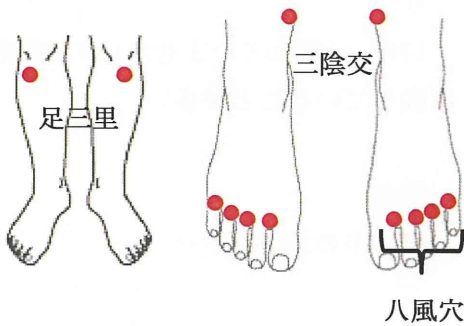
● カルテ

6時前、尿パッドに多量の失禁あり。
7時「私は午後8時から、午前8時まで
ここが痛いんです」
レスキュー使用回数1回

● 鍼灸

著変なし。
声掛けに反応なく、閉眼のまま。
下腿周径：右31.6cm、左31.0cm

治療部位：八風穴、三陰交、足三里を使用
した。



8診目

● カルテ

4時半、「4時ごろになるとチクチク痛
むんや」左側腹部～腰部痛。
8時半、「そこらじゅう痛くなってきた。
背中どっこも一番痛い」
16時、洗髪時に疼痛を訴える。今朝よ
り痛みが増強している。レスキュー使
用回数も増えてきている。
レスキュー使用回数5回

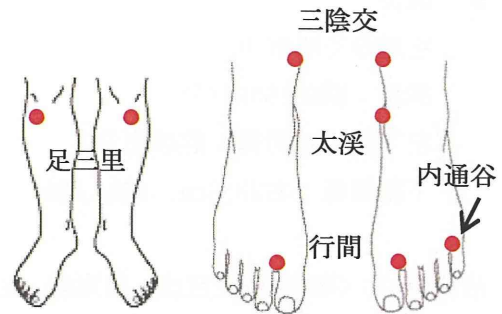
● 鍼灸

「しんどいんですわ～。腰が…腰が…」
吃逆は昨日よりも多い

脈診：散？、滑、数（一息七至）

下腿周径：右30.3cm、左30.5cm

治療部位：左後溪、足三里、左太溪、左内
通谷、行間（寫）、三陰交を使用した。



8診+1日目

● カルテ

14時、16時に腰痛を訴える。
レスキュー使用回数2回

8診+2日目

● カルテ

6時、「痛みはない、5かな？今日はマ
シ」
10時半、自分からはっきりと痛みの程
度を訴えられず、日中は傾眠傾向、口
内がネチネチしている。
17時、吃逆出たり、消失したりしてい
る。
レスキュー使用回数3回

8診+3日目

● カルテ

16時、2時間おきにパッド内に尿がたっぷりある。下肢浮腫継続している。

9診目

● 鍼灸

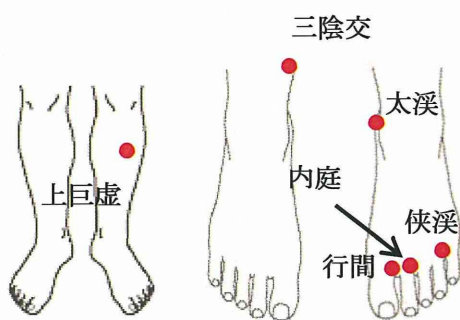
吃逆なく睡眠中

脈診：脈拍105回/分

左下腿（陽明経）熱感あり

下腿周径：右28.9cm、左31.8cm

治療部位：〈毫鍼〉左上巨虚、左太溪、左行間、右三陰交、〈鍔鍼〉左内庭、左外内庭、左侠溪を使用した。



10診目

● カルテ

8時半、排尿あり。「痛みはマシ」

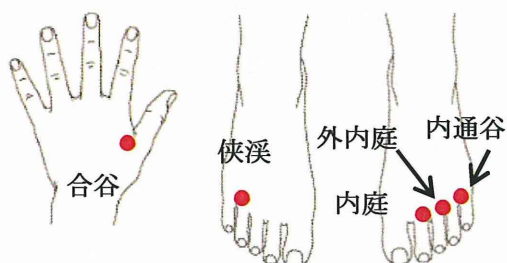
● 鍼灸

「手がふるえるんですわ。ずっと前から。左が震えると、右も震えて・・・両方ふるえる。腰は左と真ん中と右端、じっとしてたら痛くないよ」

脈診：脈拍114回/分、滑。

下腿周径：右29.0cm、左33.5cm

治療部位：〈円皮鍼〉右侠溪、左内庭、左外内庭、左内通谷、左合谷を使用した。



10診+1日目

● カルテ

15時、午前、午後で1回ずつ泥状便あり。

17時、「眠れていません」日中訪室時眠っていることが多い。

● 鍼灸

睡眠中のため、中止

11診目

● カルテ

11時半、「痛みが少しましでしょうか？」

21時ベッドギャグリアップ70度にかけた。

● 鍼灸

声掛けにてうっすらと開眼される。

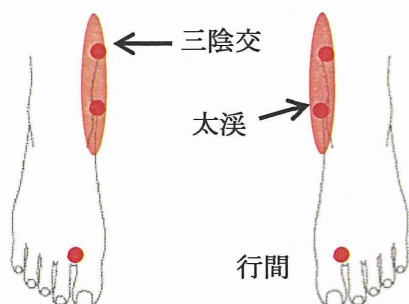
切診：全身熱感

脈診：数（一息七至）、洪。

下腿周径→右28cm、左30.7cm

ひざ下10cmは浮腫軽減が認められるが、足背～足首に集中している印象

治療部位：〈毫鍼〉三陰交、行間、〈鍔鍼〉太溪、腎経を使用した。

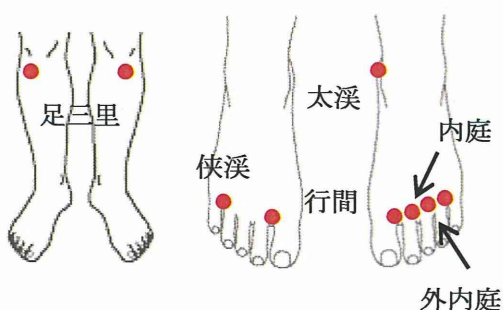


12診目

- カルテ
10時半、「しんどい、痛い、身の置き場がない…」

- 鍼灸
著変なし
脈診：数（一息七～八至）、渋
下腿周径：右27.4cm、左32.8cm

治療部位：〈鍔鍼〉左太溪、行間、左内庭、左外内庭、俠溪、足三里を使用した。

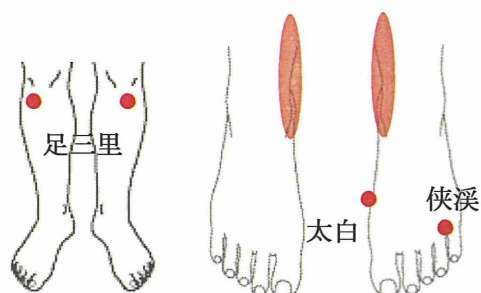


13診目

- カルテ
11時半、見当識障害あり。

- 鍼灸
著変なし
脈診：数（一息七至）34×3=102回/分、滑。
下腿周径：右26.5cm、左33.7cm

治療部位：〈毫鍼〉足三里、左太白、左俠溪、〈鍔鍼〉腎経、脾経、〈円皮鍼〉左俠溪を使用した。



14診目

- カルテ
11時、口の中が乾く

- 鍼灸
著変なし
脈診：浮、数、滑、舌診：淡白、胖大、嫩舌、湿潤。
下腿周径：右27.4cm、左33.4cm

治療部位：〈毫鍼〉左太溪、俠溪、行間（瀉）、内庭、外内庭を使用した。

